

用語解説

- ID₅₀ (50%感染量)
細菌やウイルス等の定量法の一つで、多数の動物や培養組織に、感染性の微生物を含む検体を摂取した場合に、全体の 50%に感染させると推定される微生物等の量を表すもの。
- 牛海綿状脳症 (BSE: Bovine Spongiform Encephalopathy)
牛の病気の一つ。BSE に感染した牛では、BSE プリオンと呼ばれる病原体が、主に脳に蓄積することによって、脳の組織がスポンジ状になり、異常行動、運動失調などの中枢神経症状を呈し、死に至ると考えられている。また、潜伏期間は平均 5 年、ほとんどの場合が 4 年から 6 年と推測されている。現在のところ、生体診断法や治療法はない。牛から牛に BSE が蔓延したのは、BSE 感染牛を原料とした肉骨粉を飼料として使っていたことが原因と考えられている。
- SSOP (標準衛生作業手順)
衛生管理に関する手順のことで、「いつ、どこで、だれが、何を、どのようにするか」が分かるように文章化したもの。
- EFSA による地理的 BSE リスク (GBR) の評価
地理的 BSE リスク (GBR) は、ある国である時点において、BSE に感染した牛が存在する可能性の高さを示す定性的指標のこと (GBR の定義とそのレベルは下の表参照)。かつて、EFSA が BSE の地理的リスクの評価に用いていたが、現在は OIE による BSE ステータス評価が用いられている。

表 GBR の定義とそのレベル

GBR レベル	臨床的および前臨床的に見た場合の地理的地域/国における BSE 病原体に感染した一頭あるいは複数の牛の存在
I	ほとんど可能性がない
II	可能性は少ないが、排除されない
III	可能性は大きいが確認されていない、あるいは低いレベルで確認されている
IV	高いレベルで確認されている

○ OIE による BSE ステータス評価

OIE は、国際的な動物検疫の協調の一環として、BSE について公衆衛生も含めたステータス評価（BSE リスクの程度に応じた各カテゴリーに分類すること）を実施している。具体的には、ステータス評価を希望する OIE 加盟国から提出されたデータに基づき、OIE の基準により加盟国のリスク等を評価し、各国を「無視できるリスク国」、「管理されたリスク国」（いずれも該当しない場合は「不明のリスク国」になる）として評価・分類した案を加盟国に示し、毎年 5 月に開催される OIE 総会で決定している。

○ 機械的回収肉（MRM：Mechanically Recovered Meat）

枝肉から部分肉を取った後の骨から機械的な手法を用いて付着した肉を回収することによって得られる製品。

○ 交差汚染

本評価書では、飼料製造の際、他の飼料向けの原材料が混入することを指す。

○ サーベイランス

疾病対策に必要な情報を得て、迅速な対応に利用するために、疾病の発生状況やその推移などを継続的に調査・監視すること。

○ スタンニング

家畜をと畜する際にボルトピストル（家畜銃）等で失神させること。

○ 特定危険部位（SRM：Specified Risk Material）

BSE の病原体と考えられている異常プリオンたん白質が蓄積することから、食品として利用することが法律で禁止されている牛の部位のこと。特定危険部位の範囲は、国によって少しずつ異なり、我が国では、牛海綿状脳症対策特別措置法により、と畜場において除去・焼却が義務づけられている特定部位（すべての月齢の牛の頭部（舌やほほ肉を除く。）、せき髄、回腸遠位部（盲腸との接続部分から 2 メートルまでの部分に限る。）と食品衛生法により、食品の製造などに使用してはならないとされている背根神経節を含むせき柱のことを指す。

○ 肉骨粉

牛や豚などの家畜をと畜解体する時に出る、食用にならない部分をレンダーリングした後、乾燥して作った粉末状のもの。

○ HACCP（危害分析重要管理点）

食品の衛生管理手法の一つ。1960年代にアメリカの宇宙計画の中で宇宙食の安全性を高度に保証するために考案された製造管理システムで、Hazard Analysis and Critical Control Pointの頭文字の略語としてHACCPと呼ばれている。HACCPは、製造における重要な工程を連続的に管理することによって、ひとつひとつの製品の安全性を保証しようとする衛生管理手法であり、危害分析、重要管理点（CCP）、管理基準（CL）、モニタリング、改善措置、検証、記録の7原則から成り立っている。

○ ピッシング

と畜の際、失神させた牛の頭部からワイヤー状の器具を挿入して、せき髄神経組織を破壊する作業のこと。解体作業中に牛の脚が激しく動いてと畜場の作業員がけがをすることを防止するために行われる。

○ 非定型 BSE

通常の本型 BSE（定型 BSE）とは異なる型の BSE。この非定型 BSE は、異常プリオンたん白質の分子量の相違から H 型と L 型に大別される。世界でこれまでに少なくとも 40 頭前後報告されているが、その起源は現在のところ明らかにされていない。

○ プリオン

プリオンとは、感染性を有するたん白質様の病原体を意味する造語（proteinaceous infectious particles）で、牛海綿状脳症（BSE）やヒトのクロイツフェルト・ヤコブ病（CJD）の原因と考えられている。その本体とされる感染型プリオンたん白質とは別に、正常個体内にはもともと正常型プリオンたん白質が存在する。両者のアミノ酸配列は同じであるが、唯一立体構造が相違していることが知られている。

○ レンダリング

牛や豚などの家畜をと畜解体する時に出る食用にならない部分を、加熱し、水分を蒸発させ、油分を分離し、残さを飼料、肥料や工業用資材に製品化すること。